

あげるほうが もらえる

通勤するいつもの朝、週の中日の水曜日のせいなのか、私は疲労感を感じながら車を運転していました。しばらく運転し、T地路で右折しようとして車を減速。その時、右側の道から歩いてきた小学生の女の子は私の車が通り過ぎるのを待っていました。私は女の子を先に行かせようと停車。すると、女の子は道を渡る前に頭を下げ、渡り終えた後も頭を下げました。

女の子のたった行動が、私の重かった気持ちを、軽いものに変え、とても幸せな気持ちにさせてくれました。

優しくしたのは私なのに、なぜか優しくされた気分。あげた私が女の子から幸せを感じることでできる行為をもらいました。

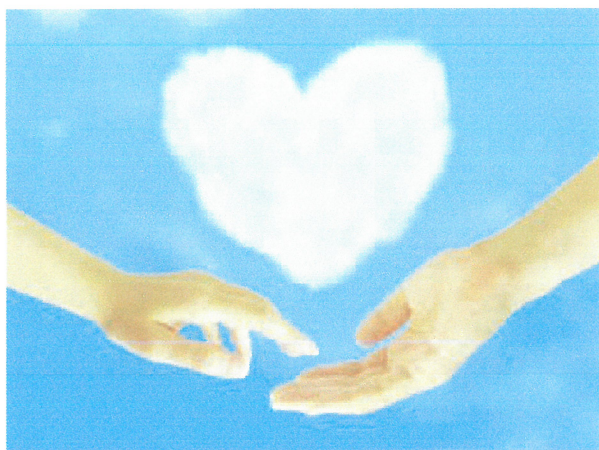
私たちは「与えられる」ことを強く望み、「与える」ことを忘れがちです。

「与える」ということに対して二つの話を紹介します。

一つは、福山雅治さんの「家族になろうよ」の歌に、「一歩ずつ 与えられる人から与える人へかわってゆけたら」という歌詞があります。この歌詞は、子どもを育てるために、目に見える大切なものや目に見えない大切なものを与え続けてくれるお父さんやお母さんに対して、自分もそうありたいと、願いが込められたものだとは私は解釈しています。

もう一つは、ネイティブアメリカンの教えに「あなたが生まれたとき、あなたは泣いていて周りの人たちは笑っていたでしょう。だから、いつかあなたが死ぬとき、あなたが笑っていて周りの人たちが泣いている。そんな人生を送りなさい。」というものがあります。こういった人生を送られるための一つに、生きている間にどれだけのものを周りの人たちに与えることができるかだと思います。

あなたがしてもらいたいと思うこと、まず、あなたがしてあげましょう。
与えられる人から与える人へ、ちょっとずつ……。



デジタルタトゥー

上記は、一旦インターネット上に公開された書き込みや個人情報など一度拡散してしまうと、完全に削除することが不可能であること。入れ墨(タトゥー)を完全に消すことが不可能であることに例えた表現になります。

安易に投稿してしまったことが、自分自身の進学、就職活動、結婚などの将来を台無しにしたり、誰かを傷つけてしまったりという話を聞くことがあります。

携帯電話を持つことは、良い面がある一方でSNSのトラブルに巻き込まれる危険性も十分にあります。

携帯電話を使用する際は、慎重な行動が求められると思います。

